

# 東日本大震災被災県中学校の取組

宮城県岩沼市立玉浦中学校

## 1・本校の概況（震災時および現在の様子）

### ① 震災時の様子

平成 23 年 3 月 11 日は本校の卒業式であった。午前中に式は終了し、午後からは、ランチルームにおいてささやかな卒業を祝う会が催されていた。14 時 46 分地震発生。その約 1 時間後に高さ約 80 cm の津波が押し寄せた。市全体では、死者 181 名、被害を受けた家屋 5428 戸、本校には約 600 名の地域住民が避難してきた。本校では 2 名の生徒が亡くなっている。

地震発生の翌月 21 日に修了式と始業式を、22 日に入学式を行い、正式に学校再開となった。

### ② 現在の様子

国内のみならず、世界中から様々な形でご支援をいただいたことに心より感謝を申し上げたい。現在では、地域住民との話し合いの下、集団移転が完了し、「玉浦西」という新しいまちができた。それに伴い、少しずつではあるが、生徒らも心の落ち着きを取り戻しつつある。

## 2. 学校の写真



### 3. 特色ある取組

#### 【校内研究での防災教育への取組】

※次のような取組について、平成27年11月11日に実践発表会を行った。

○研究主題 「自ら考えて、判断し、行動する生徒の育成 —防災教育の充実を通して—」

○目指す生徒像

- ・災害に関する正しい知識や対応方法を身に付け、防災意識を常に高く持ち、自らの安全を確保し、命を守ることができる生徒
- ・自他の命を大切にし、他の人や地域の力になろうと、互いに協力し合って行動できる生徒

○研究目標 防災教育の取組を通して、自ら考え、判断し、行動する生徒を育成する指導の在り方を探る。

○研究の視点

(1) 防災意識の向上

- ① 自分の命を守る力、他と協力して行動する力、地域に貢献する力を育む視点で学習活動を位置付ける。
- ② 課題設定、解決への意欲を高めるため、思考を広げ、深めさせるための教材・教具の吟味、提示の仕方を考える。

(2) 自分の考え、気付きの共有と深化

- ① 考え合う機会や場、交流する場の設定を通し、自分の考え、気付きを広げ、深めさせる。
- ② 多様な人と関わり、他者の考えに触れることで、自分の考えを広げ深める。

※「地域合同防災訓練」や「防災学習」の様子から

